

1 単元名 まなびをいかそう よみとるさんすう あさがお

2 単元について

(1) 教材観

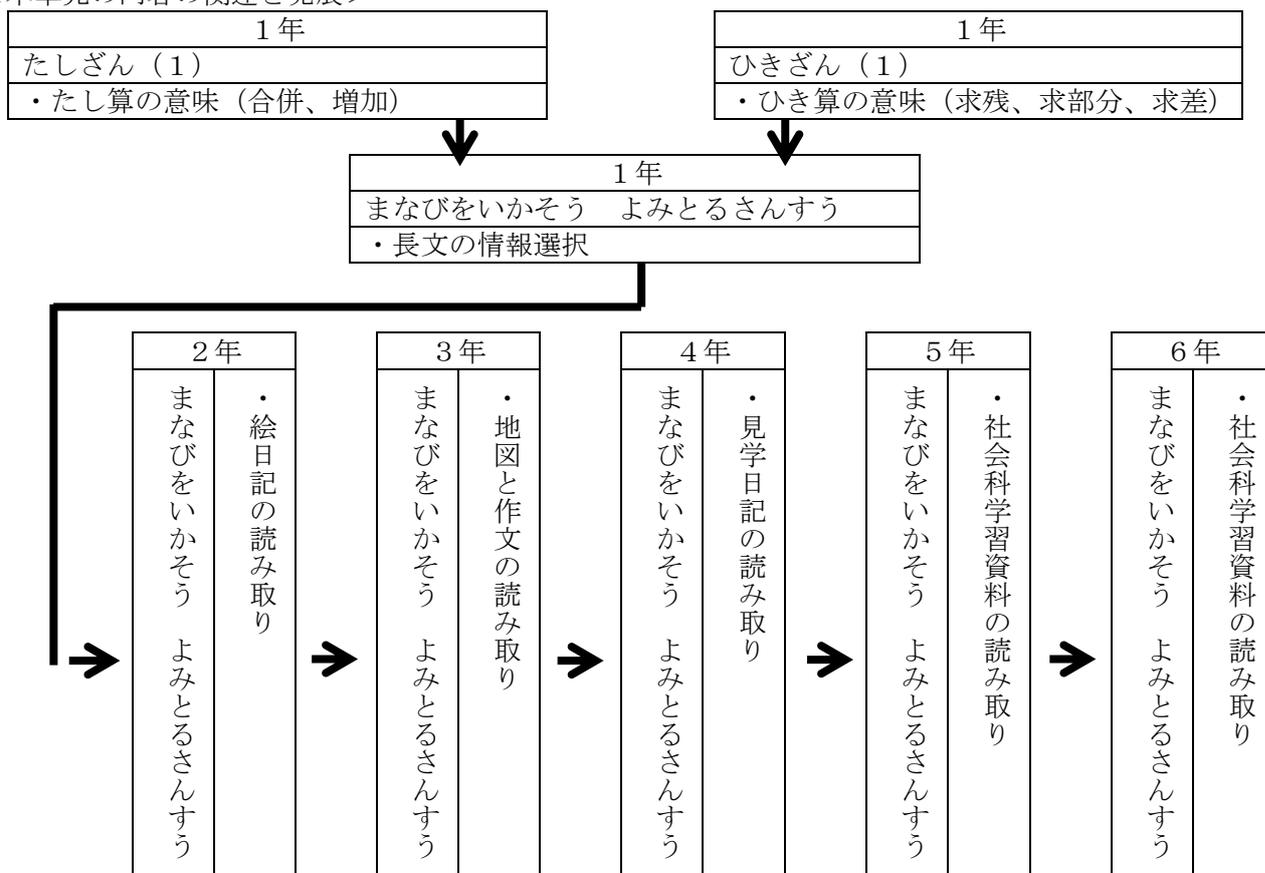
学習指導要領 第1学年
D 数量関係 (1)
加法及び減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができるようにする。

我々の身の回りには、数量に関わる問題が数多く存在している。その問題の考察や解決に当たっては、多様な事柄の中から必要な要素を選択し関連づけていかなければならない。一般の情報には、問題の解決等に必要な数量だけが示されているわけではなく、解決には関係のない言葉や情報、問題場面があったり、関わりのない状況が示されたりすることが多い。

ここでは、「ももさんのにつき」という読み物で示されている教材を用いて、全体の情報を読み取るとともに、解決に必要な条件を全体から取捨選択をしていく力を育てていくことをねらいとしている。他の単元の文章問題と違い、文中には解決に必要な数量も含まれている。また、必要な数量が順に示されていないため、文章全体を読み取った上でその中から問いに必要な条件を判断して取り出し、その後、演算決定を行っていくことが大切となる。

本教材は、全国学力・学習状況調査の結果において、例年の課題となっている、「必要な情報を整理して考えをまとめる思考力や判断の理由を説明する表現力」を養うものでもある。数量に関わる読み取り教材は、観察日記、作文、新聞、レポートなど様々なものがあるが、第1学年の本教材はそのスタートとなるものであり、丁寧に扱っていく必要があると考える。

<本単元の内容の関連と発展>



本単元につながるこれまでの学びとこれからの学びを整理し、学習内容の系統性を意識することで、本単元における学びの在り方をより明確にすることになります。また、学習内容の系統性を全教職員が意識して指導することにもつながります。

(2) 児童観

(3) 指導観

1年生の児童にとっては、本教材（一部改作）は長文であり、日付けや会話文など解決に不必要な部分が多くあることから、一斉読みや個人読みをする活動を取り入れて書かれている内容を確認する必要がある。その際、不必要な情報に惑わされないように、まず、**1**の問題文を提示し、立式のためには「あさがおの花の数」が重要な情報であることに気付かせてから、問題解決に必要な事柄を絵日記の中から読み取っていくことにする。この問題では何を問われているのかをおさえるために、赤鉛筆で線を引いたり、数字を囲んだりして立式に必要な言葉や数字を整理させることを丁寧にしていきたい。この活動が、「必要な情報を読み取る」大切な作業となるからである。情報を整理した後に自力解決の場を設け、式の根拠について説明するように促していく。自力解決の後には、発言への意欲付けとなるよう、2、3人のペア・グループで、交流する場を設定する。特に、式の根拠となる言葉が絵日記や問題文のどこに書かれているかを説明するために、どんな言い方がよいのかを交流する中で、確かめるようにさせたい。そして、**2**と**3**の問題についても同様に取り組んでいき、**1**で行ったことを参考にしながら、既習事項を活用する力を育てていく。自力解決の場では、書き記したノートをもとに考えさせたい。なお、**3**の問題は引き算であるため、**1**と**2**の問題の流れで、機械的に立式せず、しっかり問題文を読んで言葉に着目するよう促したい。

本学習では、「見通し」「取り組む」活動において、ペア・グループの交流を取り入れ、本校の研究テーマ「説明する力」「伝え合う力」「協働的に学び合う力」の育成につなげていきたい。

3 単元の目標

絵と文章を照らし合わせながら、絵日記から必要な情報を読み取り、解を求める活動を通して、加法及び減法が用いられる場面を式に表すことができる。

4 単元の評価規準

関心・意欲・態度	加法及び減法の式に表したり、式を読み取ったりすることに親しみをもっている。
数学的な考え方	加法及び減法の式を、具体的な場面に結び付けてとらえている。
技能	加法及び減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができる。
知識・理解	式に表したり、式を読み取ったりすることを通して、加法及び減法が用いられる場面の数量の関係について理解している。

5 指導計画（総時間数：1時間）

時	学習活動	評価規準《評価方法》
1（本時）	絵日記から適切に情報を選択して、問題を解決する。	問題を解決するために必要なあさがおの数を文章と絵から読み取り、問題を解決している。《ノート、発言》

6 本時の指導

(1) 本時の目標

絵日記の絵と文章を照らし合わせながら、「ももこさんのにつき（一部改作）」という絵日記から必要な情報を読み取り、解を求める活動を通して、加法及び減法が用いられる場面を式に表すことができる。

(2) 特に重点を置く評価の観点と評価規準

【考】加法及び減法の式を、具体的な場面に結び付けてとらえている。

【技】加法及び減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができる。

(3) 準備物

教師：「ももこさんのにつき（一部改作）」の拡大図、児童用絵日記のプリント、
教師用おはじき

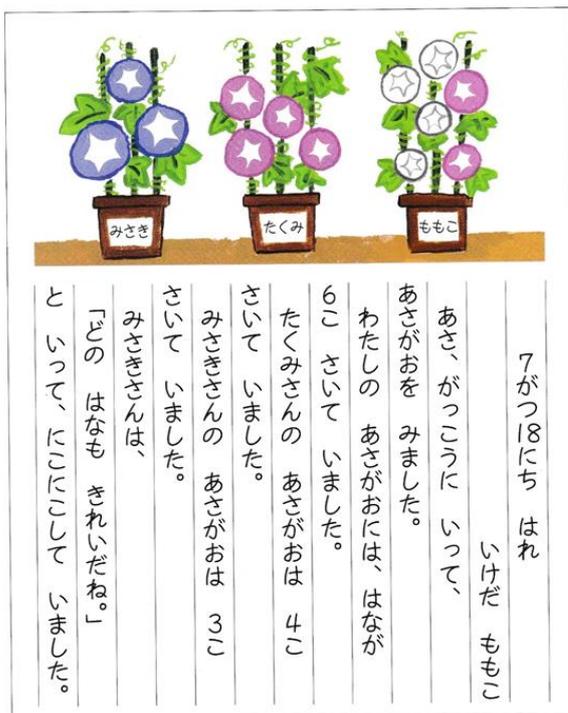
児童：数図ブロック

(4) 本時の展開

学習活動	○主な発問・予想される児童の反応	・留意点 ○評価【観点】※手立て	時間
<p>1. つかむ</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題を知り、めあてをとらえる。 	<p>問題：ももこさんとたくみさんのはなのかずをあわせると、なんこになりますか。</p> <p>○問題を読んで、どんなことが分れば式をつくれますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ももこさんの花の数 たくみさんの花の数 	<ul style="list-style-type: none"> 初めに問題文を提示し、「花の数」が問題解決にとって大切な情報であることに気付かせた上で、児童用の絵日記のプリントを配布する。 内容を捉えるため、黒板に絵日記の拡大図を貼り、全体で一斉に読んだ後、あさがおの花の絵を参照しながら個人で読むように指示する。 読みに支援が必要と思われる児童においては、T2が個別に対応する。 挿絵に手掛かりがあったり、日記文に大切なことが書かれていたりすることを確認した上で、めあてを設定する。 	
<p>10の視点①</p> <p>問題解決に必要な情報を意図的に伏せた状態で問題を提示することで、解決に必要な情報が何なのか児童と確認した上で、問題に取り組ませることができます。</p>			
<p>めあて：につきのぶんやえのなかからたいせつなことをみつけてもんだいをとこう。</p>			
<p>2. 見通す</p> <ul style="list-style-type: none"> どんな式になるのか考える。 <p>【改善】問題文の読解に困難さのある児童が、着目する数をより意識できるように「あさがおの花の数」という言葉を使つての指示と、その数を手元に置いて操作活動することを促すために、「ブロックを使い」という指示を加えることとした。</p>	<p>○どんな式になるのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 足し算になる。 6 + 4になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題を解くために必要な事柄に赤鉛筆で印をつけさせる。 立式に必要な数字は囲み、式の根拠となる言葉には下線を引くように指示する。 あさがおの花の数に着目してブロックを使い、立式をするよう指示する。 児童の様子を見ながら、T1、T2ともに状況に応じて個別指導にあたる。 	
<p>3. 取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> 式をかいて、答えを求める。 ペアやグループで交流する。 	<p>○①の問題を解きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 式 $6 + 4 = 10$ <u>こたえ10こ</u> <p>○自分の考えを友だちに紹介しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「あわせる」とあるので、足し算の式にしました。 	<ul style="list-style-type: none"> 式と答えをノートに書くよう促す。 足し算になる理由も考え、絵や文を使って説明するように指示する。 既習事項の「あわせる」という言葉が足し算であったことを想起させる。 	
<p>10の視点⑤</p> <p>言葉や絵や図を使って、立式した理由を説明させることで、式についての理解を深めることが期待できます。</p> <p>また、実生活で探した数量を用いて立式させたり、問題づくりをさせたりする指導は、式と具体的な場面とを結び付ける活動を高めることにつながり、以降の学年における四則計算においても重要になります。</p>		<p>○【考】【技】問題を解決するために必要なあさがおの数を文章と絵から読み取り、問題を解決している。(ノート、発言)</p> <p>※赤で印をした数字と言葉をもとに式を考えて、答えを求めさせる。</p>	
<p>4. 話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> どのように考えたかみんなで話し合う。 	<p>○ペアやグループで説明したことを発表しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ももこさんが6個とたくみさんが4個を合わせるだから、足し算になります。 	<ul style="list-style-type: none"> ペアやグループで確認をしているので、自信をもって挙手・発言をさせたい。 数字と文末の表現に気をつけると計算式が分かることを押さえる。 	

<p>5. 生かす ・適用題に取り組む。</p>	<p>まとめ えとぶんをよくみて、たいせつなかずとことばをみつけてかんがえればとける。</p> <p>○ 2と3の問題を自分で解きましょう。</p> <p>2 ・ $6 + 3 = 9$ <u>こたえ 9こ</u></p> <p>3 ・ $6 - 4 = 2$ <u>こたえ 2こ</u> ・ $6 + 4 = 10$ <u>こたえ 10こ</u></p> <p>【改善】加法及び減法が用いられる場面を捉えさせるという観点から、そのことをより意識させるために、3の問題が1や2と違いがあることについて伝えることとした。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2の問題は、必要な情報を取り出す際、できるだけ自力で行うようにさせる。 ・ 3の問題は、1や2と違うことを投げかけておく。 ・ つまづいている児童は、「～より何個多いか。」を問われていることに着目し、足し算か引き算かを判断するよう助言する。 	
<p>6. まとめとふりかえりをする。</p>	<p>○今日の学習の振り返りをしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文の中から数字を見つけるとい ・ 問題文の終わりを読むと、足し算か引き算かが分かりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の学習で、分かったこと（わ）、思ったこと（お）という視点でめあてに関する振り返りをノートに書かせる。 ・ 数名の児童を指名して、参考となる振り返りを紹介する。 	

これは ももこさんの につきです。



10の視点⑩

振り返りの視点として、「分かったこと」と「思ったこと」を書かせることで、本時の学習で「何ができるようになったのか」「なぜできるようになったのか」「どのように学んだのか」等、自分の学びをより確実に振り返ることにつながります。このような振り返りによって、達成感や成就感を味わえたり、次の学習への意欲がより高まったりすることが期待できます。